

学びをつなぐ生活科

「さくら たんけんたい」

第1学年2組 生活科学習指導案

1 単元について

子どもの実態

- ・6年生とかかわることが好きで、休み時間になると6年生の教室に遊びに行く児童が多い。
- ・指示を待つ児童が多く、自分からかかわろうとする児童は少ない。
- ・活動場面では、発見することで満足する児童が多く、「なぜ？」という疑問をもつ児童は少ない。しかし、課題が見つかりと解決に向けて積極的に取り組む。
- ・養護教諭や校長先生、普段よく教室をのぞいてくれる児童専任など、担任以外の職員の存在には気づいているが、それ以外の職員の名前はほとんど知らない。

⇒学校探検をしながら、興味をもったことについて、調べる方法を友達と考えながら解決していく喜びを感じてほしい。
学校内にいる職員から徐々に視点を広げ、学援隊、地域の人など自分の周りにはたくさんの人がいること

材の価値分析

- ・「学校」はこれから6年間を過ごす大切な場所である。そのため、1年生のこの時期に、学校に施設に触れたり、職員とかかわったりすることで学校に対する楽しさや、安心感をもつことが重要であると考えた。
 - ・「学校探検」をおこなうことで、それぞれの教室には役割や意味があることに気付くことができる。それにより学校は色々なことが学べる楽しい場所であると思うきっかけになると考えた。また、探検時に担任だけでなく、普段の生活の中ではあまり気づかないところにも自分たちを守ってくれている人がいることに気付くことで、学校生活を送る上で大切な安心感を得ることができるのではないかと考えた。
- ⇒学校探検をしながら、学校の施設を知ったり、自分の思いや願いをかなえたりする活動を通して、新しい発見や、新しい出会いを楽しみ、安心して、これからの生活を意欲的に過ごそうとすることができる。

内容（1）学校と生活

内容（8）
生活や出来事の交流

他教科等との関連

【国語】

- ・なんていおうかな
- ・こえのおおきさどうするの
- ・わけをはなそう
- ・おもいだしてはなそう

【算数】

- ・なかまづくりとかず
- ・なんばんめ

【図工】

- ・じぶんマークをつくらう

【道徳】

- ・あかるいあいさつ
- ・わたしたちの学校
- ・気持ちよく使うために

【生活・他単元】

- ・にこにこだいきくせん

横浜版・重点的課題とのかかわり

豊かな心の育成

○活動を通して、子ども自身が感じたこと、気づいたことを受け止め、自分自身のよさや可能性に気づかせながら、意欲的に生活する心を育みます。

コミュニケーション能力の育成

○活動の中で気づいたことを友達や他の人と伝え合ったりする活動を通して、自他を認め合い、協働、共生できる子どもを育成します。

学校・地域の特徴

- ・15以上の幼稚園や保育園から入学してきているため、初対面の児童が多い。

- ・学援隊に所属されている方が100名を超えており、様々な教育活動にも関与してくださっている。

- ・学援隊の青パトがあり、毎日朝と放課後にパトロールを行っている。

- ・6年前に統合したため、学区が広範囲に及んでいる。

単元名

さくら たんけんたい

単元目標

学校の施設とかかわったり、学校の職員と触れ合ったりすることを通して、学校施設の様子および自分の学校生活を支えてくれている人の存在に気づき、友達とかかわりながら、楽しく安心して生活できるようにする。

単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友達に関心をもち、主体的にかかわり、大切にしようとする。	学校の施設の利用、学校生活を支えている人々や友達とのかかわりなどについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	学校の施設の様子、先生など学校生活を支えている人々や友達のことに関心する。

学びをつなぐ生活科学習

単元構想

(ア) 材の吟味

毎日生活している「学校」を材として、始めは身近な存在である6年生を探そうという活動からスタートさせる。学校は身近ではあるものの、1年生の子どもにとっては初めてのものである。そこで、まずはクラスで学校を探検することにした。こうすることで、1度は行ったことのある場所が多くなり、行動範囲が広がりやすくなるのではと考えた。

「特別教室」とかかわる場面を設定することで、学校には様々な役割の部屋があることに気付くことができるのではないかと考える。その中でも、学校名の入った「さくらルーム」は表記がひらがなであり、子どもの興味を引き付けるものであると考える。特別教室の意味や意義を理解するには、さくらルームを「飾り付ける」ためには、部屋の役割を職員に教えてもらったり、担任以外の職員と繰り返しかかわったりしなければならない。職員と繰り返しかかわり親しみをもつことで、他の場所を探検していて問題が見つかった時にも、自分から職員とかかわり、解決していくことができるようになるかと考える。

(イ) 単元で迫りたい内容、育てたい資質・能力の分析・明確化

本単元の学習を通して、「学校は、楽しく安心して生活できる場所であること」に気付いてほしい。そのためにも、まずは教室以外の部屋とかかわる中で、学校は色々なことができる楽しい場所だという思ってもらいたい。また、疑問や問題を解決するために、担任以外の職員とかかわる中で、自分の意識していないところにもたくさんの職員がいること、学校にいる職員は自分たちのことを考えてくれていることに気付けるようにする。そして、自分たちでやりたいことを見つけ、解決していくことの楽しさを実感することができるようにしたい。また、国語「なんていおうかな」などの学習と関連させながら探検をおこなうことで、他教科の学習に対する意欲も高めていく。

(ウ) 課題の設定および子どもの思いや願い・思考に沿った単元の展開

学校で勉強する初めての単元であるので、子どもの「やりたい！」という思いを生かした単元を構想していく。子どもの小さなつぶやきでも、学校の施設の役割や職員と出会うきっかけのある活動であれば、共有化して、クラスで取り組んでいくようにする。やってみたいと思ったことをまずは自分たちの力で試す場面を設定し、分からないことやできないことがあることを実感できるようにする。こうした思いをもたせることで、「誰かに相談したいな。」「学校の中に助けてくれる人はいないかな。」「こんな時は〇〇先生に聞けばいいんだ。」というように必然性をもって人とかわることができるようになる。

活動のきっかけ

○6年生ってどこにいるのかな？

- ・6年生だから、6階にいるんじゃないのかな。 ・僕たちは1年生なのに2階だよ。
- ・学校に6階ってあるのかな？



さくらしょう たんけんたい、たんけんかいし！（5時間）

○6年生の部屋を探す。

- ・いつも遊んでいるお兄さん、お姉さんは4階にいたよ。
- ・探検していたら3階に「さくらルーム」っている部屋をみつけたよ。さくらルームにはだれもいなかったよ。
- ・さくらルームって何をする部屋なのかな？

○さくらルームに全員でたんけんしに行く。

- ・きっとさくらがあるはずだよ。
- ・さくらがあると思っていたのに、普通の教室だ。何をする部屋なんだろう？
- ・学校にはいろんな部屋があるな。他にはどんな部屋があるのかな。

【国語】

- ・なんていおうかな
- ・こえのおおきさ



もっともっと たんけんしょう（10時間）

○たんけんして見つけたことをみんなに報告しよう。

- ・鍵のお部屋があったよ。どうすればはいるのかな。
- ・学校にはいっぱい先生がいるよ。どんな先生がいるのか、知りたいな。
- ・給食室に誰かいたよ。何人で作っているのかな。

【道徳】

- ・みんながつかうもの

【算数】

- ・いくつかな
- ・なんばんめ



たんけんたい レベル アップ（5時間）

○給食室を探検する。

- ・4人でみんなの分の給食を作っているんだって。
- ・給食室の先生と仲良しになったよ。
- ・給食室の先生にお礼を言いたいな。

○校舎の外を探検する。

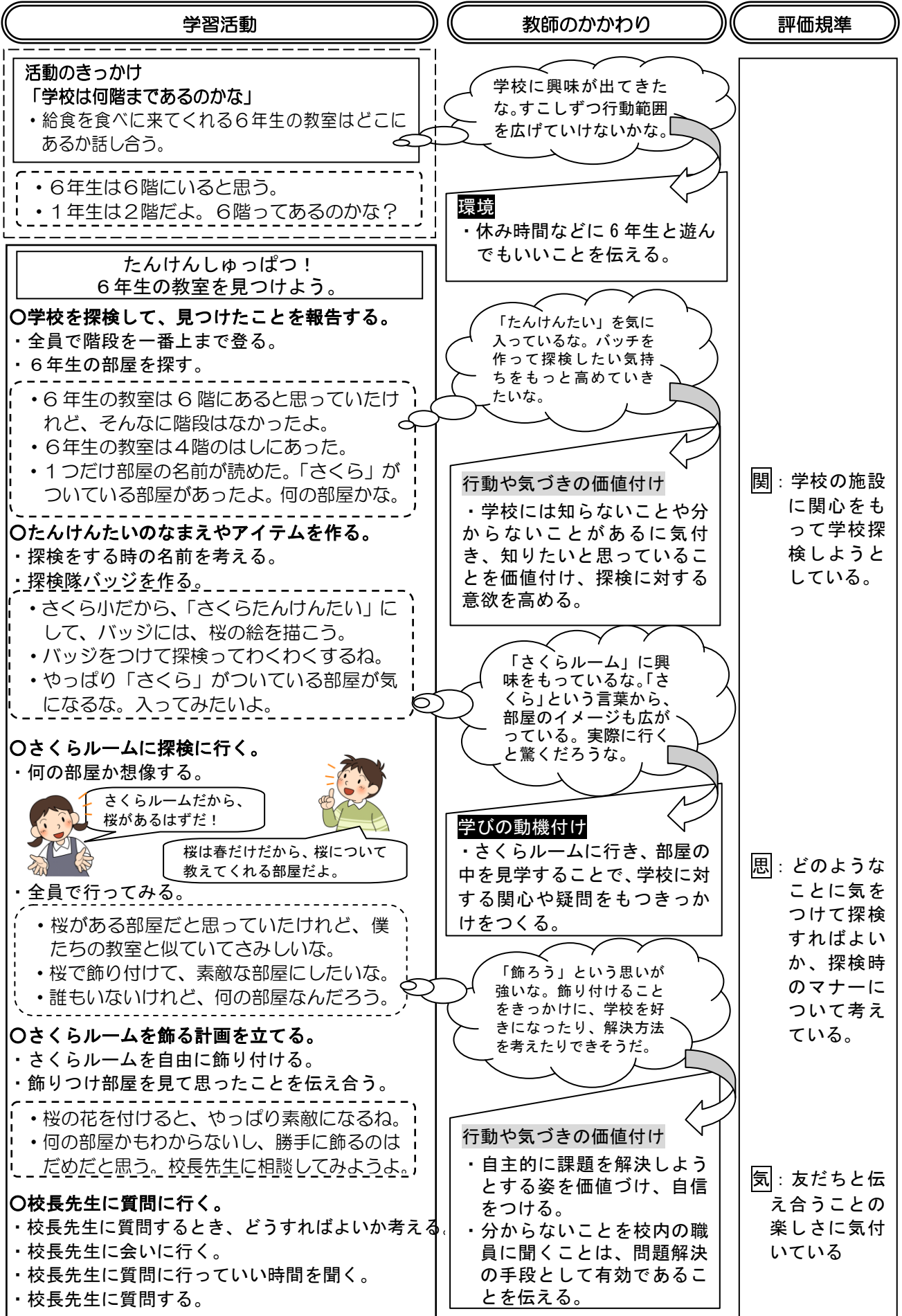
- ・屋上には太陽の力で電気を作る機械があるよ。
- ・運動場を用務員さんが掃除していたよ。
- ・学校には桜の木があるよ。1年生の花だんも見つけたよ。



- ・もう一人でも迷子にならずに歩けるよ。学校っていろんな物があるんだよ。
- ・たくさん先生の名前を呼んであいさつできるんだ。
- ・すてきなお部屋があって、すてきな先生がいっぱいいるな。
- ・まだまださくら小には、すてきなところがいっぱいあるんだろうな。

4 評価計画

小単元	小単元における評価規準		
	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
さくらしょう たんけんたい たんけんかいし! (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の施設に関心をもち、探検を通してかかわろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検をする時のマナーについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校には、特別教室など、いろいろな役割の部屋があることに気付いている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えるかを考え、伝えたいことを選んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下など、学校の施設はみんなのものであることに気付いている
もっともっと たんけんしょう (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・願いや思いをもって学校の施設や職員とかかわり、疑問を見つけたり、声をかけたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行ってみたい場所ややってみてみたいことを選んで学校を探検している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと学校を探検する楽しさに気付いている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の仕方やマナーに気付き、楽しく探検している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や担任をもたない職員とのかかわり、新たな疑問を見出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校には、たくさんの部屋や職員が存在することに気付いている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に見つけた発見や疑問を伝えたり、聞いたりしながら、進んで交流しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵の借り方など、施設の利用の仕方や友だちや職員とのかかわり方について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設はみんなのものであり、気持ちよく生活するためのマナーやルールがあることに気付いている。
たんけんたい レベル あっぷ (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設や学校生活を支えている職員に親しみ、主体的にかかわろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設や学校生活を支えている職員とのかかわりを振り返り、発見したことを言葉や絵、動作などで表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設や学校を支えている人々がいることが分かり、学校の良さに気付いている。



学習活動

教師のかかわり

評価規準

- ・「失礼します。」って言って入るんだよ。
- ・さくらルームはお勉強に使う部屋だって。
- ・勉強に集中できるようにするなら、飾ってもいいって。

○さくらルームをかざり付ける。

- ・自分たちの飾りつけを振り返る。

- ・桜の大きさがバラバラできれいじゃないよ。
- ・勉強に使い部屋だから、虹や鳥、雲はいらな
いと思う。
- ・このままじゃ、勉強に集中できないね。

- ・勉強に集中できるような飾りつけを考える。
- ・考えた飾りつけを試す。

- ・勉強に使う部屋だから、教室の中じゃないほ
うがいいのかもしれないね。
- ・廊下って貼ってもいいのかな。
- ・どこかの教室は、ドアに折り紙が貼ってあったよ。

- ・校長先生に質問する。
- ・廊下に飾り付ける。

- ・さくらルームは大事な部屋なんだ。それぞれ
教室には役目があるのかも。
- ・校長先生ってやっぱり何でも知っているな。
- ・困ったときは質問してみると解決するな。

さくらルームの他の部屋にも
行ってみたい。

もっともっとさくらしょうを たんけんしよう。

- 探検してきたことを、報告する。
- ・気になっている場所に探検に行く。
 - ・見つけたこと、疑問、みんなに助けてほしいこと
をカードに書く。

《ふしぎに思ったこと》

3年1組にきれいな
先生がいたから写真
を撮って来たよ!

ふしぎに思ったこと

3年1組の先生が
おもしろい
おもしろい

僕たちは教室なのに、なんでお兄さん
たちは音楽室でやるのかな?

《たずけてほしいこと》

今日は教室の前の実験室(理科
室)にも、鍵がかかってたよ。

たずけてほしいこと

おもしろい
おもしろい

実験室の鍵が
かかってた

実験室に入るにはどうす
ればいいのか?

鍵のかかっている部屋に入りたいな。

「好きに飾りつける」で
なく、部屋の役割を意識
した意見が出てきたな。

行動や気づきの価値付け

- ・さくらルームの役割を考
えながら、飾りつけを考
えている発言を価値づける。

さくらルームの役割に気
付いたことで、勝手に飾れ
ないという学校のルール
に気付いてきているな。

環境

- ・校長先生とさくらルームで会
う場面を設定し、教室の役割や
学校のルールについて実物を見
ながら一緒に考えられるように
する。

課題の解決方法が分かっ
てきたな。今度はそれぞれ
の思いを大切にしながら
探検してもらおう。

環境

- ・休み時間などに行きたい場
所を探検してもいいこと
を伝える。
- ・探検カードやカメラを必要
に応じて使えるようにし
ておく。

物だけでなく、人に興味を
もったり、疑問や課題を見
つけたりし始めた。この気
づきを広げたいな。カメラ
もうまく使えているな。

行動や気づきの価値付け

- ・探検を通して新たな疑問を
見つけたり、担任以外の職員
とかかわろうとしたりして
いる児童や、カメラをうまく
活用している児童を賞賛し、
活動の幅を広げる。

共有化

- ・解決したい疑問や課題が出
てきたときには、報告タイ
ムを設定し、クラス全体に
投げかけ、みんなで解決で
きるようにしていく。

【気】：学校には、
いろいろな
部屋があり、特別教
室に役割が
あることに
気づいてい
る。

【思】：さくらル
ームの役割
を踏まえ、自
分の考えた
ことを伝え
ようとして
いる

【気】：学校にある
施設はみな
なものであ
ることに気
付いている

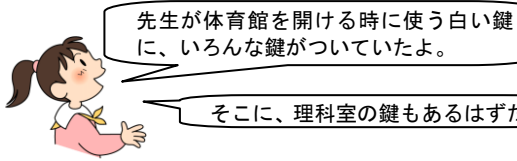
【関】：学校の施設
に関心をも
ちながら友
達と探検し
ている

【思】：行ってみ
たい場所を
見つけ、い
ろいろな部
屋を見学し
ながらその
部屋の特徴
や疑問とな
ることを見
つけている

かぎの あけかたを しらべよう。

○鍵の借り方を知る。

- ・鍵はどこにあるのか話し合う。



- ・白い鍵を使って、理科室を開けてみる。

白い鍵は体育館の鍵なんだ。鍵は職員室から持ってきていたよ。

職員室で聞いてみよう。

- ・職員室から理科室の鍵を借りる。
- ・職員室から借りた鍵で理科室に入る。

- ・鍵は職員室で借りられるんだね。
- ・「〇〇の鍵を貸してください。」って職員室にいる先生にお願いするんだよ。
- ・みんなの力で解決できたね！

屋上に鍵を借りて行ってみたいな。

いろんな先生を調べたいな。

○屋上を探検する。

- ・職員室から屋上の鍵を借りる。

鍵は職員室で借りられたよ。「屋上は危ないから先生と入ってね。」と言われたよ。



知らない先生を見つけたよ！でも写真は上手に撮れてないかも。

みんなと一緒に探検に行こう。

- ・みんなで屋上探検に行く。

- ・やっぱり鍵は職員室にあるんだね。
- ・パソコン室の鍵も職員室に借りに行ってみようよ。
- ・危ない所とか、場所によっては先生がいないといけな場所もあるんだな。

見つけた先生を紹介したいな。

- ・撮ってきた写真を使って見つけた先生を紹介する。
- ・写真を撮るときに、どういけばいいかを考える。

- ・遠くからこっそり撮っていたからわからなかったんだ。声をかけて撮るようにしよう。
- ・名前を聞くともっと詳しくなれそう。
- ・給食室にも誰かいたよ。

鍵の部屋に興味がある児童が増えてきた。理科室にどうやって入るかみんなでも考えることで解決できるようにしていこう。

共有化

- ・鍵を開けたいと考えている児童が困っていることを伝え、鍵の開け方をみんなで考える。

・それぞれ行きたい場所ややりたいことが見つかったな。休み時間も探検しているぞ。

・鍵は安全面に気付くきっかけにもなりそうだな。

環境

- ・自分の知りたいことを友達と一緒に調べてもよいことを伝える。
- ・休み時間に先生探しに行けるよう、ルールを確認し、カメラを使えるようにしておく。
- ・鍵を借りに行ったとき、貸してくれた先生に「屋上は危ないから子どもだけでは入れないこと」を伝えてもらう。

それぞれのグループで伝えたいことが見つかったな。

共有化

- ・屋上の楽しさや鍵を借りた時の出来事を報告し、学校のルールについて考える。
- ・職員がたくさんいることや写真がうまく撮れていないことを伝え、職員に声をかけるときのマナーについてみんなで考える。

思：これまでの生活経験をもとに、鍵の借り方など施設の利用の仕方について考えようとしている

気：みんなで探検したり、課題を見つけて解決したりしていくことの楽しさに気付いている。

関：自分の思いや願いをもって、学校の施設や職員にかかわろうとしている。

思：特別教室や担任をもたない先生とのかかわりについて振り返り、新たな疑問を発見したり、課題の解決方法を考えようとしている。

思：マナーを考えながら、職員に声をかけようとしている。

学習活動

教師のかかわり

評価規準

○パソコン室を探検する。

- ・パソコン室の鍵を職員室から借りる。
- ・パソコン室の中を探検する。
 - ・やっぱり鍵は職員室だ。
 - ・この部屋で勉強してみたいな。
 - ・パソコン室にも大事なものがたくさんあるから、勝手に触ってはいけないね。

○給食室に入ってみる。

- ・給食室をのぞく。
 - ・道具が大きい。
 - ・何人で作っているのかな。



忙しいから、話せる日があるか手紙で聞いてみよう。

話したいことを手紙で質問する。給食を作る様子を見学する。

○鍵の部屋を探検する。

- ・漢字の部屋の鍵を借りる。
- ・漢字の部屋の中を探検する。

みんなと給食を作る所を見たいな。

- ・4人で450人分を作るんだって。
- ・感謝の気持ちを伝えたいな。

みんなにも鍵の部屋に入ってほしいな。

- ・1階の部屋は教室と全然違うね。
- ・鍵の部屋は特別な部屋なんだね。

もっとくわしく探検したいな。

たんけんたい レベル あっぷ。

【学援隊との交流】

○さくらバッチを作る。

- ・学援隊の人へのプレゼントを考える。
- ・バッチづくりに必要なものを教室で探す。

英語の名札みたいに、とめるところを作ろう！



機械を使って、ピンクの紙をカードみたいに固くしようよ。

教室に欲しい材料がないよ！！

- ・必要なものを手に入れる方法を考える。
- ・事務の先生にお願いして必要なものをもらう。
- ・バッチづくりで困ったことを相談する。

ラミネートした紙と安全ピンはどうやってくっけるといいかな？

事務室の先生に聞いてくる！



ラミネートのゴミは、何ゴミ？

用務員さんがいつもゴミ捨ての時にいるからゴミのことを知ってそう！

- ・事務室の先生って何でも持っているね。
- ・校長先生じゃない先生にも相談していいんだ。
- ・学校にはいろいろな仕事の先生がいるんだな。

学校のこと、たくさん分かったよ。また、友達と発見したいな。学校って楽しいし、おもしろいね。

校長先生に質問した時のことを生かして、自分で工夫しながら活動しているな。

行動や気づきの価値付け

- ・さくらルームで学習したことを生かし、自分から行動している児童を賞賛し、自信をもたせる。

職員のことに関心をもっているが、鍵チームはかかわりが少ないな。職員も集めることに夢中になっている。児童から働きかける中で、学校を支える人がいることに気付くような場面を作れないかな。

環境～出と待ち～

- ・バッチづくりを通して、事務員さんや用務員さんとかかわることができるようにする。教室に必要な材料がないという状況を設定し、事務員さんとかかわりたいという思いをもち、作っていく中で生じた疑問を児童に解決させるようにする。

また、解決方法を全体で共有化し、自主的に課題を解決しようとする姿を賞賛し、4月と比べて、学校のことについて詳しくなっていること、自分の成長への気づきを促す。

関：友達に見つけた発見や疑問を伝えたり、友だちの発見を聞いたりしながら、繰り返し友だちとかがわろうとしている。

気：学校には、たくさんの部屋や人がいることに気付いている。

思：目的に応じてだれに相談するかを考え、工夫して伝えようとしている。

気：学校には、たくさんの部屋や学校生活を支えている人々がいることに気付いている。

6 成果と課題

材の吟味

- 成果** ・「さくらルーム」は入学してきた児童にとってひらがな表記であり、学校名の「さくら」が入っている身近な教室であり、親しみをもちやすい場所であった。また、少人数で使うクラスであったため、好きな時間に繰り返しかかわることができた。
- ・「飾りつけ」という課題を通して、校長先生とかかわるきっかけが生まれた。
- 課題** ・「さくらルーム」をはじめに全体で取り扱ったことで、その他の環境に興味をもつまでに時間がかかった。
- ・「飾りつけ」を通して用務員さん事務員さんとかかわることができたと思われる。第1次では、校長先生とかかわるだけで終わってしまった。そのため、困ったときは「校長先生に聞けばいい」という考えになってしまった児童が数名みられた。

単元で迫りたい内容、育てたい資質・能力の分析・明確化

- 成果** ・さくらルームを取り扱うことで、子どもの願いを達成させていく過程において、それぞれの部屋に役割があること気付くきっかけになった。
- ・「かざりつけ」を通して校長先生とかかわる中で、質問の仕方、校長室への入り方など、学校のルールに触れる機会を設定することができた。
- 課題** ・「飾り付ける」という活動が内容（1）に迫る手立てとして正しかったか。学校の施設や自分を支えてくれる人がいることに気付くうえで有効だったか。
- ・「自分たちを支えてくれている人々の存在に気付いたり、その人たちの思いを知る」というよりも、「自分たちの思いを実現する」という意味合いが強くなってしまった。

課題の設定および子どもの思いや願い・思考に沿った単元の展開

- 成果** ・子どもにとって解決したい課題を取り扱うことで、主体的に追求しようとする姿が見られた。
- ・個々の思いや疑問を共有化しながら学んだことで、友達と話し合ったり、誰かに聞いたりしながら解決することの有効性に気付くことができた。
- 課題** ・子どもにとって解決したいという切実感があつたにもかかわらず、教師が出すぎてしまった。それにより、必然性をもった出会いのきっかけを奪うことになった。さくらルームでは材料をただ与えるのではなく、事務員さんと出合わせるきっかけとするなど、先を見通し、子どもの状況に合わせながら出と待ちの場面を判断できていなかった。